

燦燦ニューズレター

これからの燦燦会について

新しい体制のスタートにあたり、執行部の皆さんに考えていただきました。皆さんも一緒にどうぞ。

『祭りの御神輿を担ぎたい時に担ぎ休みたくなったら、担ぎ手が変わりお神輿は途切れなく進んでいく。祭りは楽しく自然と楽しみの輪が生まれます。これからどんな時代になっても燦燦会という楽しみの輪が、広がっていくことを心から望んでいます。(濱口吉右衛門会長)』

『燦燦会の活動はソフィア会からも、大学からも注目されています。皆さんは入会の際、燦燦会に「何か」を期待されているものと思われます。いかにしてこの何かを解明し、期待に応えるかがこれから会を運営するためのキーワードとなるでしょう。(石川雅弥会長代理)』

『金祝を近い将来に控えた卒業生が、金祝と同時に燦燦会の会員になることを心待ちにできるようにするには、燦燦会の日頃の活動を出来る限り多くの卒業生に知ってもらう必要があります。そのためには、日頃から学院、大学、そして何よりソフィア会との連携を緊密に保つこと、更には、我々の日頃の活動に関心を持ち、知ってもらうための広報・情報の発信が重要であると考えています。(畔柳文雄副会長)』

『大学を卒業してから50年。そろそろ昔の仲間とゆつくりと青春の思い出話に華を咲かせたい頃、そこにコロナが襲ってきた。学友とも会えず、昔を語り合う場も奪われ、ひたすら stay home、燦燦会はそんな処に同期生・同窓生との出会いと交流の機会を与えてくれます。燦燦会の留学生支援活動を通じて海外の文化に触れる事も出来る。これぞソフィアの醍醐味。皆様も是非一度味わってみては如何でしょうか。(鈴木真事務局長)』

『50年の祝賀会が終わった時、上智と縁が切れるのかと思ったが、燦燦会という受け皿があると言うことが分かって入った。今までの社会生活と違って、気楽にできる、できる時にできることを無理しないで行い、でもちょっとだけ無理をする、この指とまれで集まり、散っていく・・・いつまでも引退できないというありがたい組織です。(小川元事務局長代理、相川美子会員管理チーム サブリーダー)』

『金祝燦燦会は、利他の精神で運営されているゆるやかな会であると思います。金祝奨励金の授与を5名から8名、そして昨年は10名に拡大し、一部地域の選抜からワールドワイドに広げられた決断はすばらしい偉業でした。ただ金祝燦燦会の認知度はいまだ道半ばの状態ですので、新役員体制での継続目標として活動していければと願っています。(飯塚忠一監事)』

zoom 会議に参加してみよう

「あれっ、ジイジも Zoom やってんだ」、そう、孫の反応です。若者に負けじと始めた Zoom 会議もすっかり燦燦会に定着し、それまでは役員に限られていたのを、11月の定例会議では従来の運営会議に参加されていた皆様全員に声を掛け、19名の参加がありました。そういう役員の皆さんも Zoom に慣れるまでは、接続できない、繋がっても声が聞こえない、顔が見えない等々苦労しました。お孫さんに教えてもらうのもいいでしょうが、我々は自分たちで何度か練習会を行い今のように落ち着きました。慣れてしまえば便利なものです。練習会に参加された谷道まやさん(1967 文国)は、「コロナ禍の前には、全然聞いたこともなかった『Zoom』というインターネット上の Tool のお陰で、参加者の顔を見ながら話し合うことが可能になりました。何という幸いでしょう！やはり、顔の表情を見ながらでないと、なかなか話し合いは進みません。指定の時間にパソコンの前に座りさえできれば、参加できます。」と言っています。

まだ Zoom を利用されていない方は是非チャレンジしてみてください。世の中が広がりますよ！



西村雅男さん(1959 文新)、
江澤健二さん(1960 文英)、
篠崎晃さん(1960 外西)、
吉野拓男さん(1960 文新)、
鈴木顯一さん(1962 文哲)
と佐藤洋子さん(1970 外
英)の6名の方にお集まり
いただき、皆様の思いを熱
く語っていただきました。
コロナ禍で対面の座談会

は開催できず、新しい試みとして皆様からの投稿を「架空の」座談会としてまとめたものです。(広報チーム、なお、
司会はくろやなぎ畔柳文雄副会長にお願いしました。)

司会 私たち燦燦会の活動はソフィア会のみならず、大学からも注目されています。設立当時の思い出
やその後の活動について一言ずつお願いします。

江澤さん 金祝燦燦会の発足は正式には2012年1月20日ですが、その前身は「金祝の会」といい、濱
口さんを委員長とする60年卒の金祝実行委員の有志で結成しました。その最初の活動は2010年12月の
ASCでのワインコーナーの設営で、奇しくも隣は中国人留学生会のブースでした。次が2011年のASFで
の「金祝お休処」の設営で、飲食物を用意して、卒業生や在学生との交流を図りました。これに勢いを得
て次は2012年のASFで留学生のスピーチコンテストを開催することに決め、2011年11月にはスピーチ
コンテスト案をまとめました。その際に「金祝燦燦会」と名称を改めましたが、名付け親は田中立夫さん
です。

2013年には奨学金制度の「金祝奨励金」を企画し、その原資とするために会員を対象に毎年「一口千
円募金」を始めました。2016年までは千円募金の使途を金祝奨励金に限っていましたが、2017年からは
全ての留学生支援企画に使えるように改め、現在に至っています。

篠崎さん どの学校にも同窓会はありますが、卒業後50周年を通過した卒業生のみの会がある他の大
学の例を私は知りません。それだけソフィアンの愛校心・母校愛が年月を経ただけ強いことは上智大学と
自分達の誇りではないか、というのが設立第一報を聞いた私の印象です。

吉野さん われわれ昭和35(1960)年卒が、金祝を迎える1年前に第1回金祝準備委員会(仮称)が
開催され、10名以上の方々が集まり、討議が始まりました。殆んど見知らぬ方々でしたが、こんな素晴ら
しい方々が！と感動したのを覚えています。濱口吉右衛門氏の司会で、会議の纏め役は、江澤健二さん。
見事なコンビで、成功の予感十分でした。

西村さん 金祝燦燦会は1960年卒の皆さんが発起人となって設立されました。僕はその前年の金祝該
当者ですので呼びかけられた方です。そこに何をやるのかは分からないけど何か大学なり学生なりにお返
しをしたいといった提案を受けて「そういう手があったか・・・！」と感心して参加させてもらいました。
もう年寄りだというのはその通りですけど、その年寄りに何か無理をさせるということはありません。

僕の場合は何をやるのかわからないまま、熱意に燃えた60年組の活動に、あれよあれよと巻き込まれ
ていただけでした。それでも間に合う組織だったのです。無理なカンパを強制されたり、体力不相応の仕
事を押し付けられたりということはない組織として始まっていたのです。

大学にお返しをしたい。とりあえず「For Others」の「Others」を留学生に置き換えて活動を始めるこ
とになりました。始めたといっても多額の奨学金を贈呈する力はありません。奨学金の方は一口千円募金
で、大学で行っていた奨学金に上乗せする形でスタートできました。

鈴木さん 創設後、縁あって運営会議見学に来て会員の真摯な前向き、且つ、目的を履違えず進む姿勢
を認め、協調して目的達成しようと手伝いを申し出で参加したものです。

司会 一昨年になりますが、江澤さんから「役員の若返り」をご提案いただき、昨年 10 月には役員の大幅な改選にこぎつけ、業務ハンドブックを作成し今後の業務引き継ぎを容易にしました。この一年間を振り返ってのご感想をお願いします。

西村さん この一年は燦燦会発足以来の成果がまとまった時期といえるでしょう。コロナで活動に支障が生じているのは残念でしたが、燦燦会の発足以来の事業展開を総括できる良い機会となりました。やみくもに走ってきたような状態から、やってきたことの目的・効果・今後の見通しなどが整理できたように思います。

江澤さん 72 歳以上の者で会を運営することの難しさは、基本的に活動できる期間が短いことですが、さらに言えば個人的な、ご家族も含めての健康問題があります。その現実を痛感しています。

鈴木さん 「役員若返り」の趣旨は達成されたと認識しています。大人数の会に育ったことでもあり会組織構成の重要性を念頭に置くものの組織構成に捉われ過ぎずに、創設時の意気を中心にして組織はあくまでも会員が働きやすい組織を作り上げて行くのが好ましいと思います。

司会 残念ながら、今では会議もリモートとなり、対面でのイベントや懇親会が開催できない状況です。燦燦会への入会は任意ですので、入会される方はそれぞれ会の活動に関心があり、会員になったら自分でも何か出来ることがあるのでは、との期待感を持たれているのではないのでしょうか。地方や海外在住の会員との交流も念頭に置いて、これからの燦燦会に期待することをお願いします。

吉野さん 金祝という最後の集いに、クラス会ではなくて、同期の素晴らしい仲間と祝杯を酌み交わしたいと、願っていました。われわれ新聞学科も、それまで 20 年位、仲良くクラス会を続けていましたが、在学時代に心血を注いできたグリークラブの仲間や、ボッシュタウンと学生寮の仲間たちとも、上智大学卒業生として、社会生活やら人生の哀歓を語り合い、学び合いたいとの想いが強くあったのです。このような会を期待しています。

江澤さん 留学生のための企画として、これまでにスピーチコンテスト、金祝奨励金、エッセイコンテスト、俳句コンテスト、茶の湯体験など色々と実施してきました。それが会の活力の源泉であったと思います。これからもいい企画が実施されてゆくことを期待しています。

鈴木さん 先ず金祝燦燦会の目的を念頭に入れてそれを拡大してゆくことだと思います。支援を要する学生を中心にして自分達で何が出来るかを考えて事業/活動を少しずつ広げることかと、金祝燦燦会の身の丈にあった形で。

西村さん 燦燦会創設当時から今日までとこれからとでは環境が全く違いますが、そのころ・志には変わりはありません。新しい環境の中でより一層の「こころのこもった事業展開ができる」ことを期待しています。例えば俳句コンテストの会での江澤さんの和訳です。思わぬ文化交流、俳句の奥深さを留学生だけではなく会員以外の方々にも広め、感動を広げています。茶の湯にふれる会もそうです。

篠崎さん 四谷での目標が「海外から四谷への留学生の支援」であるなら、NY ソフィア会の目標は「四谷から NY へのソフィアの支援」としよう。それは学生に限らず、卒業生で社会人として NY への長期出張、転勤、移住で来るソフィアの家族も含め、先に住む我々 NY ソフィアが家族ぐるみで公私にわたり相談にのる Big Brothers, Big Sisters のシステムを作りました。

燦燦会の重要課題のひとつである海外からの留学生への支援に関連して留学生の母国・都市にあるソフィア会との連携を密にし、留学生が帰国後は現地のソフィア会への参加を促すと同時にその国について専門的に学ぶ上智の学部・学科への情報提供を奨励する。上記の NY ソフィア会の例に倣い、燦燦会員有志と在校生の希望者とをマッチした Big Brothers, Big Sisters 制度を作ったらいかがでしょうか。

司会 最後に、昨年会された 70 年卒を代表して佐藤さんから燦燦会の印象と、西村さんに燦燦会に対する思いをまとめていただければと思います。

佐藤さん 先日「金祝燦燦会勉学奨励金」を受賞した学生さんたちとズームで交流している燦燦会の皆様方をみて、とても感激しました。ゴールデンエージャーの方々がイキイキと社会に貢献している！というのが新しい発見でした。

ソフィア会事務局で仕事をしていましたので、燦燦会という会については、だいたいの事を知っていました。ただ、その認識は、金祝をお祝いした方が、その後集まって色々と活動している、というような単純なものでした。しかし、入会してみて、びっくりしました。会長以下、業務執行チームがしっかりと構成され、それぞれの方が分業で様々な事に当たられています。それに皆さん、とても前向き！コロナ禍のため直接に会えないので、ズーム会議で様々な事をどんどん決定して、実行に移されています。凄くパワフル！のんびりと運営しているのだらうなと思っていた私の考えが覆されました。今後は皆様のご指導を受けながら、自分に出来ることからやっていきたいと思っています。私も燦燦会会員となった今、これからは国内と海外の卒業生を結ぶ会など、ネットで交流する企画などがあればお手伝いできればいいなと思っています。

西村さん 役員でもないのに会議にはのこのこ出てゆき、言いたいことをしゃべっているのです。一般の組織でしたら会議から追い出されてしかたのない存在です。それが何故追い出されもせず、この座談会にも参加しているのか。それは会の皆さんに惚れ込んでいるからなのです。役員の方々をはじめ、学生さん、大学の関係者の皆さんが、燦燦会の目的をよりよく達成できるように尽力しておられるのを、できる範囲で応援しているだけなのです。ノルマがあつての作業ではありません。

それどころか燦燦会の行事に軒並み参加して楽しませてもらっているのです。楽しめる内容の事業を皆さんが展開しておられるのを、自ら楽しむことでその目的が達成できていることを証明しているのです。屁理屈になりますけど、良き「With Others」であることも会員としての仕事といえるのです。どうぞ気楽に参加・加入なさってください。

燦燦会は同窓会です。金祝のお祝いをしていただいた、最低でも 72 歳以上の会員で構成されている組織です。ご説明しましたように、意義があり、皆さんに喜んでもらえて、尚且つ楽しい会なのです。これまでに無かった組織です。貴方にもぜひ野次馬根性で十分ですのでご参加なさいますよう、これは自信をもってお勧めいたします。参加したところで、様子をみて、楽しんで、そこでできることがあれば何でも挑戦してみてください。思いつきをなんでも歓迎いたします。もともと思いつきで発足した組織です。貴方の思いつきが燦燦会の新しい事業に発展するかもしれません。そのための仲間もいます。

留学生ではありません。現役の学生さんたちとの交流もあります。「今の若い者は・・・」なんていえません。素晴らしい学生に上智は恵まれています。その学生たちと交流しませんか。貴方が若返ることは保証いたします。期待してください。

司会 本日はお忙しい中、燦燦会としては初めての試みであります架空座談会にご参加いただき有難うございました。設立当時の皆様の思いを大切に、皆様のご提案を今後の燦燦会の運営に生かしていきたいと思っています。

編集後記： 現在の燦燦会の会員は約 400 名です。執行部役員の皆様にこれからの燦燦会について一言ずつ語っていただき、会員を代表して 6 名の方々による架空の座談会ではこれからの燦燦会に期待することを語っていただきました。参加の皆様からいただいた 1 万文字以上の原稿は半分以上になってしまいましたが、皆様の熱い思いが伝わってきます。今回も金祝奨励金を受賞した 10 名全員の留学生から感謝状をいただき、Zoom を利用してお互いに顔を見ながらの懇話会を開催することが出来ました。その内容を手短かにまとめてみました。Zoom 会議は慣れれば大変便利なツールですので、皆様も是非チャレンジしてみてください。(MI)

おめでとうございます！

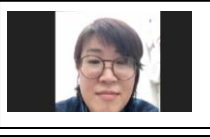
今年度の金祝勉学奨励金受賞者の生の声

今年は、恒例の対面による受賞式を開催できませんでしたので、受賞者の方とは3回にわたって授業の合間をぬってのZoom方式での懇話会となりました（2020年9月28日、10月19日と12月14日に開催）。

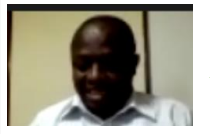
濱口会長：今回奨励金を受けて頂きありがとうございます。皆さんからいただいたレターオブサンクスは素晴らしかった、インプレシブであった、皆さんが思っていることや困っていること、感じたこと、ホームタウンのことなど皆さんの話を聞かせていただきたい。学生の皆さんの授業の都合で3回に分けることになりましたが、10名全員の方とお話することが出来ました。どうかお互いに助け合ってほしい。でも燦燦会の皆も皆様を助けたいと思っています。どうか遠慮せず困ったら相談を持ち掛けてください。微力ですがあなた方のキャンパスライフを有益にするよう助けたいと思います。



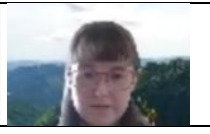
ロレンゾさん：マニラにいます。日本に住んでいた時は台東区に住んでいました。浅草橋の近くです。45分くらいかかります。今マニラにいますが入管の都合で来年になりそうです。時差は1時間で今12時10分です。クラスはOn Lineによって勉強しています。



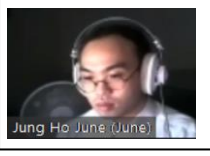
王さん：中野区鷺宮に住んでいます。電車で40分位かかります。3年前2018年にきました。仕事は週一回精神科のクリニックで非常勤として働いています。前に修士の時日本に来て臨床心理学を勉強しました。現在博士課程に進んでいます。現在のクリニックでは半分くらいが中国人で日本人との半々です。中国語でカウンセリングをしています。中国語でカウンセリングを行う人は少ないので役に立っていると思います。山東省出身です、青島が中心にあります。



クワク・アデュさん：1年振りですね。また会えましたね。後期に進みました。奥様や子供とはちゃんと電話しています。



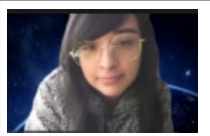
ザイラ・エリザベスさん：毎日大学で実験しています。一教室学生6名までが許可されています。メールで色々悩みを聞いていただきありがとうございます。三鷹に住んでいます。



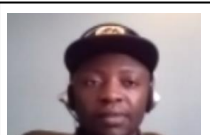
チョン・ホジュンさん：昨年日本にきた。カトリックの高校をでて、ソフィアはホームスクールみたいなものだ。台東区に住んでいます。何か問題を持っているかとの質問には無いと答えた。またコロナの前に2月に韓国に一旦かえって、3月に戻ってきた。



プレシラ・アンギアチダさん：インドネシア出身、博士課程の2年生です。電子工学によって有機化学と災害のマネジメントを勉強しています。国分寺のアパートに住んでいます。



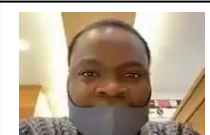
キアナ・デビンスキーさん：シカゴの出身。博士課程の1年生です。現在全方向ビデオストーリーミングの需要拡大に対応するための研究をしています。また日本語の学習及び創作活動をしています。新宿に住んでいます。



アワ・ジョエルさん：カメルーンの英語通用区域から来ました。私的な留学生です。農業の持続性と気候の変化に興味もっています、そして日本における農業の研究をしています。クリスチャン・ナンガさんとは英語通用地域では無いので分からない。また去年受賞のシェラ・ヌダムさんの名前は聞いたことがあるが良くは知らない。



チック・ナンガさん：墨田区に住んでいます。越中島（江東区では？）東京スカイツリーの近くです。メトロは何回も乗り換えしています。前回のZoom交流会ではアワ・ジョエルさんが来たが、彼もカメルーンから来た。私は彼の名前は知っているが、あまり詳しくは不知道です。



バカレ・ラシード・オルワフェミさん：母国の洪水対策としてハード・ソフト両面からのアプローチを研究中。現在執筆中の博士論文が通り、帰国した暁には母国で政府に頼らない洪水対策に取り組みたい。故郷はナイジェリアの海に浮かぶ島の一つで、日本を研究の地に選んだのは、同じ島国であり、災害対策に技術が進んでいるからです。

金祝勉学奨励金受賞者の言葉（抜粋）

10 名全員の受賞者から日本語・英語の礼状をいただきました

Jung Ho June チェン・ホジュン、男、大韓民国、国際教養学部 国際教養学科

...I am writing this letter to express my gratitude to Kinshuku-sansankai for encouraging my studies at Sophia University...With this scholarship, I am looking forward to utilizing it as part of living expense, also as an opportunity to purchase new books related to my field of study and languages...With full of gratitude, I want to express that I am extremely thankful for this magnificent opportunity to be awarded by Kinshuku-sansankai. I promise that I will make the best use of this financial aid to endeavor my studies...

Awa Joel アワ・ジョエル、男、カメルーン共和国、博士前期課程 地球環境研究科 地球環境学専攻

Online studies this semester due to Coovid-19 have been challenging yet interesting and taught provoking. The pandemic has destabilized me financially as I cannot do my usual part time job following calls for everyone to maintain social distancing. I therefore see this scholarship award at this time as a blessing as it is going to help me get a good laptop for my studies. I am indeed indebted to your honorable Association for assisting especially those in difficulties to be able to achieve their dream academic goals...

Prissilla Anggiadita プリシラ・アンギアヂタ、女、インドネシア共和国、博士前期課程 地球環境学研究科 地球環境学専攻

I am incredibly grateful for the opportunity that you have bestowed on me with this Benefactors' Scholarship...With a background in organic chemistry and disaster management. I will treasure this opportunity that had been given to me. Once again, let me profess my gratefulness for your consideration, and I hope to be able to eventually give back to the benefactors with my research and contribution to the Sophia University.

Chick Christian Nanga チック・クリスチャン・ナंगा、男、カメルーン共和国、博士前期課程 理工学研究科 理工学専攻

I am a self-sponsoring student depending entirely on my part-time job for my schooling financial support and daily living expenses. By awarding the Kinshuku scholarship you have lightened my financial burden which will allow me some time focus more on the most important aspect of school learning and research work... I hope in the future I might be able to help students achieve their goal just as you have helped me.

Pangilinan Lorenzo Llorente パニリーナン・ロレンゾ・ロレンテ、男、フィリピン共和国、博士前期課程 グローバル・スタディーズ研究科 グローバル社会専攻

...writing this letter to express my deepest gratitude for your kind organization in choosing me as one of this year' recipients of the SOPHIA UNIVERSITY KINSHUKU ENCOURAGEMENT AWARD...This Encouragement Award empowers me to overcome my present circumstances and fight for the accomplishment of my Master's degree which, in turn, would qualify me to apply for my country's Foreign Service Exam...

Adu Isaac Kwaku アデュ・アイザック・クワク、男、ガーナ共和国、博士後期課程 地球環境研究科 地球環境学専攻

...My heart is filled with joy, happiness and appreciative of the fact that I was chosen as a recipient of your scholarship...I am in the material and life science laboratory with great emphasis in medicinal product synthesis, and research in multi-disciplinary fields such as nanoscience, pharmacognosy and chemistry...By awarding the Kinshuku scholarship you have lightened my financial burden which will allow me some time to focus more on the most important aspect of school learning and research work...

Bakare Rasheed Oluwafemi バカレ・ラシード・オルワフェミ、男、ナイジェリア連邦共和国、博士前期課程 地球環境学研究科 地球環境学専攻

On behalf of myself and my institution, Sophia university, I am using this opportunity to show my appreciation for being one of the recipients of the Kinshuku Encouragement Award...My research focus on flood risk mitigation through both structural and non-structural approach towards flood management in my hometown, Lagos, Nigeria...The scholarship will definitely assist me to focus more on my research by solving some of my financial constraints...

Wang Xiaoshuang オウ・ショウソウ、女、中華人民共和国 博士後期課程 総合人間科学研究科 心理学専攻

。。去年、臨床心理士の資格を取り、中国人の患者さんがたくさん通っているクリニックや中国語心理相談室でカウンセラーをやっています。。現在は、研究と臨床を両立し、多忙な毎日を送っています。特に、コロナの収束が見えない現在、医療現場で患者たちを支える自分の役割の大切さを実感しています。。上智大学金祝燦燦会勉学奨励金に採用していただき、心より感謝申し上げます。たくさんの方々の力になりたいと願っています。

Dziubinski Kiana Issamar デビンスキー・キアナ・イッサマー、女、アメリカ合衆国、博士前期課程 理工学研究科 理工学専攻

。。勉学奨励金のご支援を頂けるようになりまして、誠に有難うございます。。現在私は 360 度 Virtual Reality (VR)ビデオストリーミングの需要拡大に対応するための帯域幅やストレージの消費を低減する手法の研究を行っています。。奨励金は、研究費と生活費として使わせて頂きたいと考えております。また、ご支援に恥じぬよう、残りの学生生活ではより一生懸命勉強し、更なる効率的な技術開発に取り組んでまいります。

Seiler Elisabeth Rada Desideria サイラ・エリザベス・ラダ・デシデリヤ、女、ドイツ連邦共和国 博士後期課程、理工学研究科、理工学専攻

。。現在、上智大学において、高分子材料の研究をしています。研究課題名は、「イオン液体を用いたセルロースヒドロゲルの簡易作製と医療材料としての評価」です。。日本での研究生活を送るうえで唯一の課題は、厳しい経済環境です。。そのような中で、金祝燦燦会からのご支援をいただく機会を賜り、勉学に専念できる環境を整えることができ、ありがたく思います。。今後も一生懸命に研究に取り組む所存です。